

## 園番号 (706) 奈良市立帯解こども園

園長名 仲島 かおり

園児数 77 名

1. 研究主題「あー楽しかったあ」と心が満たされるこども園を目指して  
～子どもの豊かな遊びや生活を支える保育者のまなざし～

2. 研究年度 次年度

### 3. 研究主題設定理由

前年度までの課題を基に、子ども達皆が心満たされ、「あー楽しかったあ」と園を後にするためには、その感情を尊重し、安心感やポジティブな体験を提供することが重要であり保育者のまなざしやかかわりがその柱となっているのではないかと考えた。今年度はクラス職員間だけでなく全職員で子どもの姿を共有しながらどのような支え方をするか多角的な視点から子ども達の姿を見取り、思いを合わせていくことにねらいを置きながら研究を進めることにした。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

「あー楽しかったあ」と心が満たされるために、子どもの豊かな遊びや生活を支える保育者のまなざしやかかわりについて保育者がどのような視点でかかわるべきか。またそのかかわりがどのようにこどもの発達を支えるのかを考察する。

#### ②研究の重点

- ・研究主題について職員相互の共通理解を図り、具体的な取り組みの方法を探る。
- ・子どもの姿や行動の変化にかかわる環境構成・保育者の援助の在り方を探り、それを基に日々の教育や保育に取り入れる。

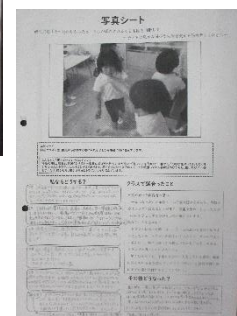
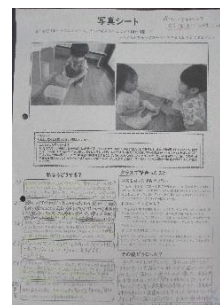
#### ③活動の方法

- ・日々の教育・保育の中で環境構成や援助の仕方について保育者が迷ったり、悩んだりしている場面の写真を用いて「写真シート」※を作成し、1年を通してPDCAサイクルの循環を意識してクラス職員間の思いを合わせていく。

- ・各実践事例については子どもの心が満たされた姿、環境構成・保育者の援助、**模索している事**という項目で分類し考察した。

※「写真シート」とは

- ①保育の中で迷ったり悩んだりしている場面をエピソードとして記録する。
- ②写真を撮った保育者の思いや大切にしたいことを話し合い、記録する。
- ③クラス以外の職員から「自分だったらどう関わるか」を記入してもらう。
- ④もらった意見をもとに、その後保育者の思い等がどのように変化したのかを記録する。



4歳児 4月 『赤ちゃん生まれます』

お医者さんごっこを楽しんでた子ども達。お医者さん役の子がスプーンを持ち、口あけてくださ〜い」と患者役の子の口に付けたり、「おめめみせてくださいね」と目を触り、「お医者さん」と「患者さん」になりきり楽しむ姿があった。さらにお腹に赤ちゃんの人形を入れて病院を訪れる患者さんが来れば、「あかちゃんがうまれますね」と赤ちゃんが出てくるように服をめくり「うまれましたよ。」「いっしょにしゃしんとってください」などと会話も楽しみながらとてもリアルなごっこ遊びに発展した。

《評価・反省》

- ・子ども達の遊びに対する真剣度を見取り、話し合いの機会をもったり、命の大切さを伝えていたりする。
- ・友だちとイメージを共有しながら楽しんでいる姿を大切にしたいが友達の体を触ったり、服をめくったりする行動が気になる。

【多角的な視点から得た意見】

- ・折りを見てプライベートゾーンの話してみてもどうか。
- ・人の体に興味をもつ良い機会。傍で見守ったり、ふざけていると感じたりしたら話し合いの機会を設けてみてはどうか。

(考察)

「命の大切さ」を皆で考える機会を意識的にもつようにした。興味をもった春の生き物を捕まえることで満足し、虫かごの中で死んでしまうことが続いていたため、その度に「大切な命」をどうしたらよかったのかを話し合ってきた。すると夏に出会った生き物は保育者の仲立ちがなくても「ごはんがないとしんじょうね」「ママのところにかえしてあげよう」と自ら手放す姿につながった。また、プール活動が始まる時にはクラスでプライベートゾーンについて話すことができた。

2歳児 5月 「うるさい！」

A児は音楽を流して体操をしている時、トランポリンの順番待ちで歌を歌っている時、絵本を読んでいる時にも「うるさい！うるさい！」と繰り返し言う姿があった。この日は保育室で音楽を流して体操をしており、子どもたちは掛け声に合わせて声を出したり思いきり体を動かしたりしながら体操をしていたが、A児は大声で「うるさい！」と言いだした。すると、B児もA児につられ、一緒になって「うるさい！」と大声で言い、A児はさらにヒートアップしていった。

《評価・反省》

- ・全員が体操に参加しなくてもよいとは思いますが、楽しんでいる子どもたちの気持ちがそれたり、B児のようにつられる友達がいるとさらにA児がヒートアップしたりするので気になる。
- ・A児の気持ちを満たせるように、1対1で関わる時間を多くもったり、スキンシップをとったりしていく。

【多角的な視点から得た意見】

- ・A児にこっそり体操の曲を決めてもらうよう声を掛けるなど、特別感をもてるようにしてはどうか。
- ・体操中にA児のことを見ているよということを伝えたり、A児の良い行動をみんなの前で認めたりし、気持ちを満たせるようにしてはどうか。

(考察)

体操が始まるまでにA児にこっそり音楽のリクエストを聞いたり、体操の中でA児とのスキンシップを多くとったりするようにしたことで、A児も体操に参加する姿が見られるようになってきた。また、A児やその他の子どもの姿を認める声掛けも意識することで、気持ちを満たしたり、意欲に繋げたりできているように感じる。A児が「うるさい！」と繰り返し言う姿は減ってきているが、その日の気分や気持ちの安定感にも影響されるため、引き続き様々な方法を探っていきたい。

5歳児 6月『トカゲかいたい!』

園庭遊びの際にトカゲを捕まえた子ども達。虫かごに入れて保育室に持ち帰り観察を楽しむ中で、このトカゲを飼ってみたいと子ども達から声が出た。図鑑を見て餌を調べてみると、生きた虫しか食べないと書いてある。昨年度カエルを飼育した際に、餌の確保が難しく、逃がしてやることになった経験もあるが、それでも飼ってみたいと言う。結局その日は「しんだらかわいそうやな」と逃がすことになったが、残念そうにしていた。

《評価・反省》

- ・ いろんな生き物の生態に興味をもったり、飼育してみたいと思ったりする姿を大切にしたい。
- ・ 身近な生き物にも命があるということを再度考えるきっかけになってほしい。

【多角的な視点から得た意見】

- ・ 子ども達と一緒に図鑑を見たり、実際に園庭に出て餌の確保ができるのかを考えてみたりしてみてもどうか。
- ・ 実際に飼育してみて、観察する中で生き物が元気でいられる理由や弱ってしまう理由などを考えてみてはどうか。
- ・ 絵本や話し合いを通して「命」について話し合ってみてはどうか。

(考察)

夏になり、カブトムシやサワガニを飼育してみたいという意見が出た際には実際に餌が何なのか調べたり、飼育スペースを考えたりしながら、自分達で飼育環境を整えようとする姿に繋がった。またどれくらいの頻度で餌を与えないといけないのか水替えはどうするかなど、保育者と一緒に考える機会をもつことで飼育の大変さ、命の大切さに気づくことができた。子ども達からは「飼育当番」を決めるなどの意見も聞かれ、大切に飼育しようとする姿に繋がった。

1歳児 7月 『ぼっとん落とし』

A児は、こだわりが強く、自分の近くに友達が寄ってくるだけで、叫んだり手が出たりして怒ることが多い。A児がぼっとん落としをしているそばにB児が来ると、「のー」と言ってぼっとん落としを自分のほうに寄せた。保育者が「Bちゃんもやりたいんだって」「後で貸してね」と仲立ちするが、ぼっとん落としを持ってその場を去った。その後、A児がぼっとん落としをしていなかったのに、B児がぼっとん落としで遊んでいると、泣いて怒り、切り替えるのに時間がかかった。

《評価・反省》

- ・ A児の気持ちを理解しつつも、他児の思いも大切にしたいため、一人一人がしたい遊びに遊びこめる環境を整えていきたい。
- ・ 保育者が仲立ちとなり、思いの橋渡しをしたいが、泣いて聞き入れられないことが多いので、保育者に思いを受け止めてもらえるという安心感をもち、存分に遊べるようにしていきたい。

【多角的な視点から得た意見】

- ・ 仕切りなどを使ってスペースをつくり、落ち着いて遊べる場所をつくってはどうか。
- ・ 保育者と一対一でかかわる時間をもって、本児の気持ちを思う存分受け止めたり、スキンシップを多くとったりしてみてもどうか。

(考察)

段ボールで仕切りをつくり、落ち着いて遊べるスペースを設け、一人で遊びたい時は、そこで遊ぶように声をかけることで落ち着いて遊べるが増えた。本児の思いを受け止め、一対一でかかわる時間も設けるようにすることで、少しずつ保育者との関係ができ、保育者が仲立ちすることで、友達のことを受け入れられるようになってきた。今後も、自分の思いを出しながらも、受け止めてもらうことで安心して遊べる環境を整えていきたい。

## 0歳児 8月 『こっちで遊ぼう』

一人で歩けるようになり、足腰の力もついてきたA児。少し高さのある場所に登ったり、重いものを押ししたりできるようになってきた。

保育者が他の子どもと遊んでおり、少し目を離れた際に、重い仕切りを押し遊べるコーナーから出ようとするA児。この姿がよく続いている。生活コーナーには、午睡中の子どもや食事中の子どもがおり、そちらに関わっているもう一人の保育者も手が離せない。そのため、A児が遊びコーナーから完全に出てしまってから「戻ろうね」「こっちで一緒に遊ぼう」と声を掛け、手を引いて遊びへと誘った。

### 《評価・反省》

・重いものを押せるようになった姿や、ここを押せば出られることが分かってきた姿に成長を感じる一方で、遊びコーナーで安全に遊んでほしいという思いがある。

### 【多角的な視点から得た意見】

- ・押し遊ぶ玩具を用意し、欲求を満たせるようにしてみてもどうか。
- ・仕切りは保育者しか動かせないほどの重さにしてみるかどうか。

### (考察)

・環境の再構成を行い、仕切りを置く場所や重さ、高さを変えたりし、子どもが押し出にくい仕切りになるように工夫した。また、重い手押し車も用意した。まだ遊びコーナーから出ていこうとする姿はあるものの以前より頻度が減り、重い手押し車を押し遊ぶを存分に楽しむ姿が見られている。他の保育者から多角的な視点を得たことで環境の見直しができ、本児の欲求を満たせる遊びに繋げることができた。

## 3歳児 9月 「一番になりたい！」

部屋から移動する際に、順番に並ぼうとすると一番前に並ぼうと数人の子が急いで走っていき、どっちが早かったかを争い始めてトラブルになる。保育者が間に入って話を聞くと「〇〇が先やった！」「〇〇が一番やった！」と互いに自分の思いを訴え続ける姿がある。早く並ぼうと片付けや外に出るための身支度を頑張る姿はあるものの、並ぶたびに一番を争ったり、抜かした、抜かされたトラブルになる。

### 《評価・反省》

・一番になりたいと頑張っている姿は認めながらも、移動の度にトラブルになってしまう。

### 【多角的な視点から得た意見】

- ・並び順を決めてみるかどうか。
- ・一度に並びにいかないように、保育者がグループごとや靴下の色などで別れて並びに行けるようにしてはどうか。

### (考察)

・並ぶ際に一斉に並ぶことがないように、グループごとや靴下の色などで呼ぶようにすることでトラブルは減ってきている。減ってきてはいるがトラブルになった時には保育者が間に入って、一人一人の思いを受け止め、丁寧に準備をしている姿を認めていくことで、一番になれなくても「まあいいか」と自分の中で折り合いをつける姿も見られるようになってきている。

## 5. 研究の成果

保育を行う中での悩みを共有し、全職員がいつでも見られる状態に掲示して多様な視点・意見をもらうことで、自分自身の悩みの解決方法を見つけるきっかけになったとともに、他職員もその多様な考えに触れることで関わり方の引き出しやアイデアの学びに繋げることができた。またPDCAサイクルを意識して一年間毎月発信し、意見をもらった後、その悩みがどのように解決されたのか、どのように活かすことができたのかまで記録することで次への保育への意識も高まった。

## 6. 今後の課題

保育の中の悩みを基に研究を進めた。一か月と比較的長い回答期間と、自由閲覧方式にしたことで、回答者は余裕をもって考えたり、記入したりすることができた。その反面、発信者が即、悩みの解決を求めている場合は、意見やアイデアを活かせないことがあった。回答期限を短く設定したり、途中経過を話し合ったりすることを再検討する必要がある。